

編集後記

会報 20 号をホームページに掲載いたしました。今回は、「農学系学部・大学院の未来を考える」を特集いたしました。皆様ぜひお読みください。

ところで、ここ数年農学部の志願者が増加しているといわれています。2014年11月4日発行のアエラの見出しには「農学部人気で女子が殺到」とあり、さらに「重労働だし……。そんな 3K のイメージは昔の話。食、生命、環境、バイオ、エネルギーとトレンドもしっかりキャッチ。農学部に注目が集まっている。」とある。東大でも全学部の女子比率 18% に対し、農学部は 28% と大きく上回るこのことです。私立の東京農業大学では、41% にも達しているということです。就職先が多岐に渡っているのも人気の背景のようですが、農学系のなかでも、関心が高まっているのは食の分野であることから、女子の人気が高いのも理解できます。このようなことから農学部新設の動きもあるようです。放射能汚染の問題もあり、国民のなかに食は生きるための根源の営みであるとの認識が広まってきたことがその背景にあるようですが、これが単なるブームに終わらないことを願いたいものです。それには全国の農学系学部が実質的な受け皿として自覚し、未来を見据えて努力することが必要でありましょう。今回の特集の意味もそこにあります。健闘を祈りたい。

ところで、私事になりますが、本年 9 月末をもって（独）日本学術振興会監事を任期満了で退任いたしました。2 期 4 年にわたってご支援いただきありがとうございました。これですべて非常勤になりましたので、大分気が楽になりました。

（文責 會田勝美）